



































































Bust Out

Ripp@Lip

...For Adult Only...







どうだかなあ

あ……



ちょっと触った  
だけでこんなに  
濡れてるぜ？

やあ……っ！

み……  
見ないで……っ

ゴッ

覚悟……  
決めなくちゃ



敗者は勝者に  
従わなきゃな？  
それがギャンブル  
のルールだよな？

そ……  
それは……っ

ふ……あ

ムヒヒ



これからこの  
男にいいように  
されて……っ

あっ……ん

本当は期待して  
わざと負けたん  
じゃないか？

き……期待  
なんて……っ

んんっ



あの……  
私やっほり……

来てしまった……  
何をされるか  
分かってるのに

今さらそりゃ  
ないでしょっ

オレの部屋まで  
来ていてさあ

ふあ……っ



リオ (私…待ってたの…?  
ひどいことされてるのに…体が  
熱くて…っ)

オーリン 「さあて…女神の中にたっぷり  
出させてもらうぜ…!」

リオ 「だ…だめっ…! な…中なんて  
…私初めてで…っ!」

ズビュッ! ビュッ! ビュッ!

リオ 「っ! 熱っ…ふあああああっ♥」

リオ 「は…あああっ♥」

リオ (入ってくる…っ ふ 太いのが  
私の中に…っ)

オーリン 「中はこんなにヌルヌル  
じゃないか…随分我慢してた  
みたいだなあ?」

ギュムツ!! モニュツ モニュツ

リオ 「ひ…やあんっ♥そんなに…っ  
強く揉まないで…っ!」

ギムツ

ズビュッ







リオ (…っ…いっぱい出したのに…  
まだ私の中で大きくなって…っ)

オーリン 「へへ…っ もう一発中に出したら  
妊娠してしまうかもしれないなあ？」

リオ 「!!っやあ…っ も…もう許して  
…っ!!」

オーリン 「いいじゃねえか…そっちも  
気持ちよくて堪らないんだろ？」  
こうやって突くとぎ…っ!

リオ 「あっ♥はあっ♥ざっきより  
激し…っ♥」

オーリン 「急に絞まって…もう  
いきそうなんだろ？」

リオ 「ひあっ♥も…もれちゃう…  
恥ずかしいトコ…  
見ないでええっ」

リオ (だ…めっ♥奥のほう  
グリグリ当たって…もう…  
いっ…ちゃ…♥)

ビュクッ!! ビュクッ!!

リオ 「!!っイク…っ  
んあああああっ♥」





リオ 「く…っんあぁっ…そんなところ…  
押し付けたら…っ ひぁっ♡」

客 「そんなところ?もっと詳しく言っ  
てみる…お客様の命令だぞ」

リオ 「うう…っ ク…クリトリス…が  
ジンジンして…飛んじゃ…っ  
はぁんっ♡」

ピクッ! ピクン! ピクンッ!

客 「おっと…一人だけイかせないぞ?」

リオ 「もう私…っ 我慢できないの…  
お客様のを挿れてください…っ  
…思い切り…イかせて  
ください…っ♡」

客 「仕事中にこんなに漏らして…  
本当にいやらしいディーラーだな」

リオ 「も…申し訳ございません…っ  
んあぁっ♡」

ヴイイイイイイツ



客 「こっちも出してほしそうに  
うねってるぞリオ」

リオ 「んあっ♥お客様と一緒に  
私も…イかせてください…っ」

ドクンッ!!ドクッ!!

リオ 「!!!っいっちゃう…っ  
ふああああっ♥」

リオ 「ふあああんっ♥すごっ…♥」

客 「ふふ…やっと挿入されて  
嬉しいかリオ？」

リオ 「は…いっ…私…っ  
ずっと我慢して…  
おかしくなりそうで…っ♥」

客 「そら…口に出すぞリオ」

リオ 「!!!っ…んくっ…んくっ…」

リオ (お客様の精液…いっぱい口に入  
って…すごい匂い…っ)



…あぁっ…  
見られてる…  
私の恥ずかしい  
ところ…

んんっ…  
ダメえっ♡  
もう…  
イっちゃ…

いいいきつぶり  
だねえ  
リオちゃん!

さすが娼婦の  
女神だ

さて…  
お尻ごっちに  
向けな

あぁっ♡

もうグチョグチョ  
で…お客様の  
前なのに指が  
止まらないのっ

ん…  
は…  
はい…

今日もナマで  
射精してあげる  
からね  
濃いのが好き  
だろう?

んあ…  
中でまだ大きく  
なってる…

ふぁぁっ♡

大好き…  
ですうっ♡

はやく…  
はやく  
挿れて…

あっ♡

もっと私の奥  
までかき回し  
てえ…











ん…はあっ  
ほ…本当でしきうねっ  
これが終わったら  
リオを…

ああホント  
だって！

ホラ…こっちも  
もっとしやぶって  
くれよう？

さーてそろそろ  
こっちも使わせて  
もらおうか

リオを犯したモノを  
お前にも挿れて  
やるよ…！

お？やけに  
すんなり  
入っていくぜ？

リオ…  
あなたは私が  
助けてあげるわ  
…  
妹の私が  
絶対に…！

い…いやあっ

そんなことまで  
するなんて  
約束とちがっ…

なっ

ジタバタ  
すんなって！

ビュッ

ちゅっ

き…  
汚いモノが  
私の中に  
入って…っ

ヌ



リナ (わ…私がこんな汚いもの無理矢理挿れられて…絶対感じてなんか…っ!)

男 「リオも良かったがこっちもいいしまり具合だな…もう出ちまいそうだぜ…っ」

リナ 「!っだダメっ 中になんか絶対…やめ…っ」

ドクンッ ドクッ ドクッ…

リナ (!!っ…いやあ…入ってくる…っ 熱いのが私の奥まで…っ)

オ  
○  
ニ

オ  
○  
ニ

男 「嫌がってたわりにこっちは濡れまくってるじゃないか…もっと剥いて見てやろうか」

リナ 「ひ…やあっ!?そんなところ…っ 見…ないでえ…っ」

リナ (ゆ…指が当たって…変な感じになっちゃう…っ)





男 「さあでもう一本入れてやるからな…っ」と

リナ 「ひ…いやあ…もうやめ…はああんっ♥」

男 「なんだリナちゃん? さっきより甘い声  
出しちゃって…感じちゃってるのかなあ?」

リナ 「そんなこと…あるわけ…あっ♥ ああっ♥」

リナ (なんで…嫌なのに…私の体  
言うこと聞いてくれないの…っ  
…我慢してるのに…  
声がでちゃう…っ)

男 「へへっ…もう一発  
注ぎ込んでやるよっ!!」

ピュルッ! ピュルッ!

リナ 「んああっ…また…来る…っ  
ああああっ♥」





リナ 「はぁ…っ はぁ…っ」

男 「ほら見ろよ…奥からこんなに流れてきたぜ？ 気持ちよかったかいリナちゃん？」

リナ 「き…もち…良くなんか…っ」

男 「まあいいさ…強情な女ほど堕としがいがあるってんだ…」

リナ 「リオ…私…汚されちゃったよ…ごめんねリオ…」



はあんっ♥ もう…  
私イキそう…っ  
我慢できないのお  
…っ!

さあ…  
もっともっと  
お使いください…

私たちの全ては  
お客様のために…

フフ…イっちゃって  
いいんだよりナ?  
見てあげるから…  
お客様にいっぱい  
出してもらって  
イきなさい…っ

ひあ…ダメ…  
んああああっ♥

ジュジュ

ジュジュ









それでは次は  
技の方も  
見せてもらおう

……  
はい

こう……  
れふかあ？

いいぞ  
続けたまえ

よし  
筋は良いぞ!!

はむ

んっ  
♡

良いだろう

次はこちらだ

ホッ

グッ  
グッ

グッ  
グッ

カール





良いディーラーさんになるには  
むずかしいです...

入りました...  
けど

とても  
動かせない  
です...

よし  
合格だ!

わわっ!

それじゃあ  
今度はこちらから  
講習だ

駄目です  
駄目ですっ!

グ  
グ  
グ  
グ  
グ  
グ  
グ  
グ  
グ  
グ

ギキ  
ギキ

びん

びん

びん  
びん  
びん  
びん  
びん  
びん  
びん  
びん  
びん  
びん



